

名前 (チーム名)		N. O ( )			
月日	記録をした人	動きの決め方	ボール操作	ボールを持っていないときの動き	フレー!フレー!メッセージ
11/30	Y. I	○○	○○	○○×○	ボールがくる戸所にいどうしていい動きだね(OK)で
12/4	E. N	○○○	○○	○○○○ <small>これがなかなかいい動きだね</small>	ボールをもっていない時に動かしてボールをとっているよか、た
12/6	Y. O	○	○○	○○○○ <small>いい動きを見てもう</small>	動きをしっかりと見ていた戸所がよかった。
12/17	T. A	○○○		○○○○ <small>すばらしい</small>	ボールがくる戸所にでてきたが判断ができています
/					

※ それぞれの欄ごとについて、よくできたら「○」、できなかつたら「×」を記入し、その回数を記録していく。ボールを持っていない時もよく見ているようにしましょう!  
「フレー!フレー!メッセージ」には、よかったことや次にがんばって欲しいことを書いて教えてあげよう!

〈資料8 実際に使用した「GPAI」用カード〉

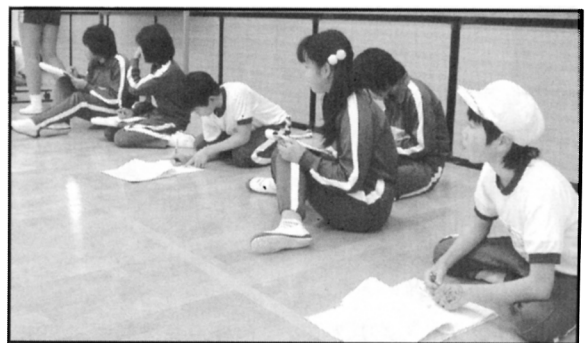
このカードの持ち主(被観察者)は、○が多く、特に「ボールを持っていない時の動き」の評価が高かったことが分かります。

観察して気付いた具体的なことを「フレー!フレー!メッセージ」の欄に記載し、被観察者へのアドバイスに生かせるようにしました。

被観察者の評価だけでなく、○や×の付け方やコメントの内容によって、観察者の「観る目」を把握することにも活用できます。

これまでは、ボール保持者だけを目で追っていたり、技能の優れた児童ばかりを見ていたりする傾向がありました。しかし、「GPAI」の実施によって、「ボールを保持しない時の動き」といった新たな観点に気付いた児童たちは、右のように、今まで以上に他の児童のプレーを熱心に観察するようになりました。また、プレーヤーも「見られている」というよい緊張感を持ちながら、また、ボールを保持しない時でも、次のプレーや作戦を考えながら、積極的に動く姿が見られるようになりました。

「よいプレーが分かり参考になった。」「自分のプレーのよいところや改善すべき点分かり、練習の課題設定にも役立った。」といった感想が多く見られ、児童は「GPAI」の有効性を感じ取っていました。



〈GPAI実施中。熱心にプレーを観察する児童たち。〉